

唐津の名の由来

唐津と云う名が、何時頃から生れたものか、はつきりしていませんが、此地方が、神功皇后の三韓征伐の船出の地と伝えられ、その後度々朝鮮に渡る船出の地となっていたのであります。即ち、朝鮮に渡るには、唐津が一番近い距離にあり、途中、志岐、対馬の島々が飛石の様にあつて、風波をさけるにも好都合ですから、この地が利用されたのでありましょう。

その頃、朝鮮や支那(今の中国)を唐からと呼んでいました。津は「みなと」と云う意味で、即ち、唐に渡る津、「唐津」となつたものといわれています。

唐津がほんとうに町らしくなつたのは、豊臣秀吉の朝鮮征伐后、その臣、寺沢志摩守が、唐津城主となり、城を築き、町を造つてから後のこととあります。



唐津は何時出来たか。

前に書いたように、寺沢志摩守広高が、この地方を領有するようになって、名護屋城を解体した資材を基にして現在の舞鶴城(唐津城)を造り、それを中心に城下町を造りました。これが現在の唐津市です。その前は、崖岳城にいた波多三河守が、この附近を領有していたのであります。唐津市に現在ある町の名は大概、豊臣秀吉の頃名護屋にその名の町名があつたもので、現在の名護屋にも未だ同じ町名がいくつも残っています。

征代の大名

唐津城主は六代替つています。

初代 寺沢志摩守広高(二代五十二年)

一時は天草まで領有していたので、十二万三千石となっていました。二代目兵庫頭堅高の時、天草の乱が起り、それを鎮定し得なかつたので、八万三千石にけずられ、僅か二代で滅びました。

この後は唐津藩は譜代大名(徳川直隸の大名)が来るようになり最後の小笠原公造(天保)に替りました。

- 二代 大久保氏(二代二十九年)
- 三代 松平氏(三代十三年)
- 四代 土井氏(四代十一年)
- 五代 水野氏(四代五十四年)